

科目名称(Course Title)				担当教員 (Instructor)	
精神神経・循環器学				岡本 悦司	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2単位	2年次	講義	無	非公開
授業の概要(Course Description)					
<p>精神及び行動の障害(ICD10大分類F), 神経系の疾患(同G)を扱う。精神疾患は, 行動や思考の症状が前面にでる疾患であるため解剖生理学では扱わない専門用語が多用される。それゆえ, 形のない行動や思考の症状を正確な用語で表現できるようになることを目標とする。神経系疾患は, いわゆる「難病」に指定される疾患が多く, 患者や家族にとって長期に渡る罹病を伴うことが多い。両群に共通することは, 病的には悪性ではなくても(直接の死因にはならない)社会的に悪性(社会からの阻害, 家族の心理経済的負担)であり, それゆえ治療(キュア)よりケアが重視されるという特質である。</p> <p>循環器では, 心疾患と脳血管疾患を扱い, とくに脳血管疾患では, 病変部位に応じて様々な神経症状を呈することを解剖生理的に理解する。</p> <p>他の科目と同様, 毎回小テストを行う。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神疾患についてその特徴的な症状(中核症状)を説明できる</li> <li>・神経疾患の病因およびそれらの予後について説明できる</li> <li>・精神及び神経疾患の社会的側面(触法精神障害者の問題, てんかん患者の運転や事故)を理解する</li> <li>・眼, 耳等の感覚器の仕組みとその疾病の症状や治療を説明できる</li> <li>・心疾患, 脳血管疾患の病態を説明でき, その症状を説明できる</li> </ul>					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	症状性を含む器質性精神障害				
第 2 回	精神作用物質使用による精神及び行動の障害				
第 3 回	精神分裂病、分裂型障害及び妄想性障害				
第 4 回	気分(感情)障害、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害、生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群				
第 5 回	成人の人格及び行動の障害、精神遅滞、心理的発達の障害、小児(児童)期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害				
第 6 回	中枢神経系の炎症性疾患、系統萎縮症、錐体外路障害及び異常運動				
第 7 回	神経系の変性疾患、中枢神経系の脱髄疾患、挿間性及び発作性障害、神経の障害				
第 8 回	多発性ニューロパシー及び末梢神経系の障害、神経筋接合部及び筋疾患、脳性麻痺及び他の麻痺性症候群、神経系のその他の障害				
第 9 回	眼および付属器の疾患				
第 10 回	耳および乳様突起の疾患				
第 11 回	心弁膜疾患、循環器系の先天奇形				
第 12 回	高血圧・低血圧疾患				
第 13 回	虚血性心疾患、肺性心疾患および肺循環疾患				
第 14 回	心膜・心筋炎、心筋症、心不全、不整脈				
第 15 回	脳血管疾患				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
なし					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法	評価基準
(割合) (%) (%) (%)	期末試験を行う(持ち込み不可) 毎回の小テストと期末試験の成績の良い方を最終評価とする。
テキスト (Textbook)	【書名】 診療情報管理 I      【著者】 基礎課程小委員会 【出版社】 日本病院会      【出版年】 2016
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	
備考 (Other Information)	3年生対象の臨床医学Cと合同で行う。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	メールアドレス:okamoto-etsuji@fukuchiyama.ac.jp 火～金は研究室にいますのでいつでも可